

I 期（一般）

受験
番号

氏
名

--

令和 7 年度

武蔵野大学 専攻科 言語聴覚士養成課程 入学試験問題 (9 月 22 日)

〔小論文〕

「オープンダイアログ」について書かれた以下の文章を読み、「開かれた対話」がもたらす治療的効果について考え、1000 字程度でまとめなさい。

オープンダイアログ（開かれた対話）とは、統合失調症患者への治療的介入の一手法である。北極圏に程近い、フィンランド・西ラップランド地方にあるケロプダス病院のスタッフたちを中心に、1980 年代から開発と実践が続けられてきた。現在、この手法が国際的な注目を集めている。その主たる理由は、薬物治療を行わずに、極めて良好な治療成績を上げてきた実績があるからだ。

ここでは具体的な実践のありように照準してみよう。

患者もしくはその家族から、オフィスに相談依頼の電話が入る。電話を受けたスタッフは、医師であれ PSW であれ、責任を持って治療チームを招集しなければならない。かくして依頼から 24 時間以内に、初回ミーティングが行われる。

参加者は、患者本人とその家族、親戚、医師、看護師、心理士、現担当医、その他本人にかかわる重要な人物などだ。このミーティングは、しばしば本人の自宅で行われる。全員が一つの部屋に車座になり、やりとりが開始される。

その際、参加メンバーの役割や社会的階層は重視されない。メンバー全員のあらゆる発言が許容され傾聴される。この雰囲気そのものが安全感を保障する。どんな治療手段（入院、服薬など）が採用されるべきかについては、対話全体の流れが自然な答えを導いてくれるまで先送りされる。

統合失調症の発症初期において、患者は自らの耐えがたい体験を語るための言葉を奪われている。それゆえ、患者が幻覚や妄想について語り始めても、スタッフはそれを否定したり反論したりせずに傾聴する必要がある。その上で「自分にはそうした経験がない」という感想を語り合ったり、その体験についてさらに詳しく患者に尋ねたりする。

このミーティングは、患者や家族を孤立させないために、危機が解消するまで毎日続けられる。